

悲願の

麻による香水

遂に、完成!!!



まほろば主人

ものだろうか、と京都・東京間の往復は元より、製品造りの一つ一つが果てしなく時間がかかることに、おそらく周りも呆れられたと思うのだ。香水のレシピを作るのに1時間、それを形にするのに10年かかった訳だ。

「第一回 世界麻環境フォーラム 京都 2016」が開催されることを、(株)やつはの滝澤泰平代表から聞いたのは、3月の来店の時であった。制作中の麻墨など是非、扱いたいとの事で、これをきっかけに完成を急ごうかと決意した。

墨は一昨年から着手しているが、未だなかなか形にならず、香水も10年の歳月を経ているが最終の完成品が未だならず、どうしてももう一山、大きなハードルを越えねばならなかった。エッセンチアの篠原代表も語っていたが、「業界でも、香水は9割方、パッケージに精力・時間が費やされる」とされている。

麻墨の構想から仕入れ、依頼、制作、文章などなどを入れると途方もない努力が払われた。香水に至っては、こんなに詰めがかる



しかし、何故か、これを遣り続けた。きっと何かがあるのだろうと期待していたのだ。

その皮切りが、今回の国際麻フォーラムである。これを世界に知らしめるのは、このチャンスしかなく、最高の場であると思われた。



墨は元より、香水においても、かつて誰もが嗅いだことのない麻のエッセンスが加わった。これにより、麻伝統文化がここに新たな装いで、創出されることになったのだ。

その報告は、来月までお待ちください。

第1回 世界麻環境フォーラム 京都 2016 The 1st International Hemp Environmental Forum in Kyoto 2016



HEMP Lifeline to the Future Environmental Solution!

主催：NPO法人日本麻協会



日時：2016年7月2日 土曜日
10:00~19:00 開場9:30

会場：国立京都国際会館 Conference Room D

2016年7月2日、国立京都国際会館。世界の麻農家や麻の専門家が集結し、日本を起点に環境問題解決に焦点を当てたネットワーク「International Hemp Environmental Forum」を結成します。世界の麻関係者が一堂に会し、世界の先進技術や経験を結集して、麻による持続可能性を実現していく機会を持ちます。麻に関する国際ネットワークのキックオフイベントが国際環境都市、日本の京都で開催されることは極めて意義深いものであり、日本から世界へ、そして世界から日本への大きな潮流を生み出していきます。

私たちが注目する「麻」とりわけHemp、学名Cannabisは一年草の循環型植物資源であり、利用できる用途は衣食住をはじめエネルギーや医療、産業資材など多岐に渡り、多くの分野で化石燃料等の地下資源や森林資源の代替となります。まさにバイオマス資源の象徴ともいえるべき植物です。成長時に吸収する二酸化炭素は落葉樹の3~4倍といわれ低炭素社会の実現への貢献度が高い植物です。麻は今私たちに必要な、地球規模での循環型社会、低炭素社会の構築に理想的な植物なのです。

日本の麻は、第二次世界大戦後から今日までの約70年間を除いては12,000年程の昔から栽培され、広く生活に利用されてきた身近な植物であるのと同時に、特にわが国固有の神道においては精神文化の根底にも関わる程の大切な植物として扱われてきました。日本では世界でも最も古い時代から麻の利用がなされていた地域のひとつであり、また文化への影響も大きかった地域のひとつでもあります。麻を利用して持続可能な生活を営んでいたことで引き継がれてきた日本の伝統の中には世界に誇るべき知恵や技術が豊富に含まれています。

産業革命以降、特に20世紀は科学・技術の世紀であり、進歩した科学・技術は日常生活の向上を実現し、私たちはその恩恵を享受し続けてきました。しかし一方で、これらの科学・技術の発展により私たちはそれまでの循環型の生活スタイルを失い、環境の劣化と資源の枯渇を引き起こし、すべての生命体を支えている「自然」への負担圧力が非常に巨大になりました。その負担圧力は拡大していく一方で、生態系に関する指標は悪化の一途をたどっています。それは環境・資源の持続可能性のみならず、人類社会の持続可能性をも危機にさらしつつあります。

私たちは今改めて、人類も生態系の一部であるとの認識に立ち、持続可能な世界を構築する必要があります。人類が持続可能な世界を維持・発展するためには、地球は有限な世界で無限な成長は不可能であることを認識し、地球の生命維持システムによってもたらされる恩恵を将来世代にわたって全人類が享受できる社会を構築することが必要です。人類共通の目的として、現在の経済成長至上主義から地球の生態系に配慮した発展に転換しなければならないのです。自然界と人類社会の調和的発展のためには、有限で地球環境への負荷が大きな化石燃料などの地下資源の利用は必要最低限として極力避け、地球規模での循環型社会、低炭素社会の構築が必要です。

私たちは麻を通して地球規模での循環型社会、低炭素社会の構築へ向けて真剣に取り組む、実現に向けて大きな一歩を踏み出していきます。関係する皆様の深いご理解をお願いすると共に、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



総合司会：小谷あゆみ
フリーアナウンサー。
農業ジャーナリスト



司会：辻信一
文化人類学者。環境運動家。
明治学院大学国際学部教員。



司会：谷崎テトラ
一般社団法人ワールドシフト・
ネットワーク・ジャパン代表理事
構成作家、音楽プロデューサー



三木 信夫
阿波忌部氏三木家28代当主
今上天皇 大嘗祭皇妙 調進者



Andrea Hermann
Canada: カナダ麻栽培免許保持者
マントバ大学 麻農学修士
Hemp Technologies社代表
Canadian Hemp Trade Alliance理事
National Hemp Industrial Association名誉顧問
European Industrial Hemp Association特別委員



門川大作 京都市長



上野 俊彦
産業用大麻栽培免許保持者
NPO法人日本麻協会 理事
株式会社八十八 代表取締役



Paul Stanford
USA: THCF(The Hemp and Cannabis
Foundation) 創設者・代表



安倍昭恵 首相夫人



菊池 治己
農学博士
産業用大麻研究免許保持者
社団法人北海道産用大麻協会
代表理事
元北海道立総合研究機構農業研究
本部上川農試場長
北海道優良水稲「ゆめぴりか」開発者



Mike Bifari
Uruguay: ウルグアイにて政府
認証建築用麻農業経営者



田中安比呂 賀茂別雷神社司宮



小泉 光太郎
京都麻業株式会社、代表取締役社長
京都商工会議所議員。
二条城下町振興会会長。
「麻小路」経営。
NPO法人日本麻協会、理事。
中国の自社管理農園にて大麻・苧麻
を栽培・加工・輸入。



Paul Benheim
Australia: H.E.M.P.: Healthy
Eating Made Possible 著者
Hemp Foods Australia代表、
Zeo International Ltd共同創設者



Olive HempThal
Thailand: DD NATURECraft
Co.,Ltd社 代表
モン族支援活動家
オーガニックヘンプ推奨者



Patrick Collins
Japan: 麻布大学 教授

まほろばたより
No.4330 16-106 7/1